

環境方針・環境活動推進

コーセーでは、環境マネジメントに関する国際規格「ISO14001」の基本的な考え方をベースに、CSR活動に関するトップマネジメント決議を「経営会議」が行い、

「地球環境委員会」が中心となって実行する独自の環境マネジメントシステムを導入し、推進に力を注いでいます。

環境基本方針

1. 環境保全に配慮し、省資源、リサイクル、省エネルギー、廃棄物の削減等に努めます。

コーセーは企業として材料・資源の減量化の推進やリサイクル材料の積極的活用、廃棄物の容易な材料を活用した商品化、工場やオフィスなど全ての事業所での廃棄物の減量化と分別収集の徹底などを目指した企業活動を展開していきます。

2. 常に環境負荷低減型の原材料の使用、および商品の研究開発に努めます。

環境汚染を防ぐために、特定材料や原料の削減、使用禁止等についてはガイドラインを作成して徹底させています。また、環境にやさしい原料や材料の研究開発も積極的に進め、商品化に生かしたり、包装材料の簡素化や軽量化に役立っています。

3. 環境関連の法律や規則を遵守し、環境保全に関する社会活動に積極的に参加します。

容器包装リサイクル法等を遵守するだけでなく、工場排出物等に関しては社内規制を強化して環境汚染の防止に努めるとともに、各事業所周辺の環境向上運動や地球環境保全事業への積極的支援なども行っています。

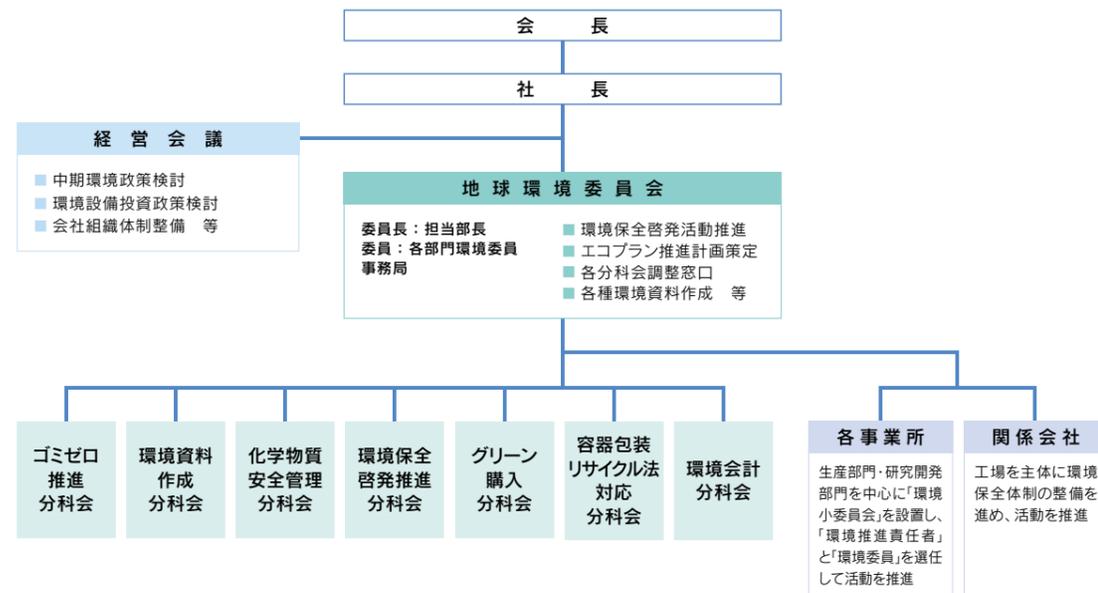
4. 環境保全活動を推進するための組織を整備し、継続的な活動を展開します。

1997年に地球環境委員会を設置し、活動の推進と関係各部門への働きかけを組織的に行うとともに、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを積極的に導入し、実施しています。

5. 環境保全に関する教育、広報活動等を通して社員の環境に関する意識の向上をはかります。

活動の原点はまず社員からということで、社員向けの小冊子「ECO BOOK」を発行したり、職場におけるエコ改善事例や提案等の募集、社内報を活用した情報提供などを行って意識向上に努めています。

環境活動推進の組織体制図



生産部門

産業廃棄物の99.5%以上をリサイクル化

コーセーは2010年度も生産部門を中心に廃棄物量削減のための努力を続けてきました。可能な限りリサイクルを実施し、単純廃棄処分を避けることを基本方針として取り組んでいます。現在、99.5%以上の産業廃棄物が再生プラスチックや堆肥、燃料へとリサイクル化されています。

狭山・群馬事業所の環境負荷データ

| | 2010年度 | 2009年度との増減量 |
|---------|--------------------------------|-------------|
| 電気エネルギー | 12,449 (単位/1,000kw) | 305 |
| 重油・灯油 | 340 (単位/1,000L) | ▲10 |
| 天然ガス | 479 (単位/1,000Nm ³) | ▲12 |
| 水 | 229 (単位/1,000m ³) | ▲34 |
| 原料 | 8,761 (ton) | ▲804 |
| 容器・包装材料 | 6,206 (ton) | ▲569 |

INPUT

コーセー主力工場（2拠点）

狭山事業所 群馬事業所

OUTPUT

| | 2010年度 | 2009年度との増減量 |
|--------------------|-----------------------------------|-------------|
| 大気への排出 | CO ₂ : 7,201 (ton) | 769.26 |
| | NO _x : 4,815 (ton) | 2,495 |
| | SO _x : 0.500 (ton) | 0.12 |
| 工場排水の排出 | 排水量: 159 (単位/1000m ³) | ▲6 |
| | BOD*: 18.09 (ton) | ▲0.82 |
| | SS*: 9.25 (ton) | 0.46 |
| | n-Hex*: 0.57 (ton) | 0.33 |
| 化学物質の排出 (PRTR対象物質) | 大気: 0 (ton) | ±0 |
| | 産業廃棄: 0 (ton) | ±0 |
| 産業廃棄物の搬出 | 総排出量: 2,218.1 (ton) | ▲99.4 |
| | 再資源化: 2,217.8 (ton) | ▲94.1 |
| | マテリアルリサイクル: 1,783.9 (ton) | |
| | ケミカルリサイクル: 150.1 (ton) | |
| | サーマルリサイクル: 283.8 (ton) | |
| | 単純焼却: 0.3 (ton) | 0.3 |

* 水質汚濁の指標として用いられる指標。BODは生物化学的酸素要求量(水中の有機物などが微生物により分解される際に消費される酸素量)、SSは浮遊物質(水中において懸濁している物質)、n-Hexは水中に含まれる油分(鉱物性、動物性、植物性)の総量

管理・営業部門

環境負荷の低い手段への切り替え

エコ啓発効果が年々社内全体に浸透し、近年では各支社・支店などでも環境保全に対する意識が高まっています。

管理部門では、分別収集の徹底や省電力商品の採用、移動によって排出されるCO₂を低減するために、Web(テレビ)会議の回数を増やすなど、環境保全に積極的に取り組んでいます。

エコカーの導入で、5年間で約440tonのCO₂を削減

現在、営業担当者が使用する車を含め約600台の社用車を所有するコーセー化粧品販売株式会社では、より環境に配慮した車輛の導入に取り組んでいます。2010年度は、このうち75台をハイブリッド車への切り替えを行いました。ハイブリッド車導入によるCO₂の削減効果は、5年間で約440tonを試算しています。これは、東京ドーム約3.2個分の杉林が吸収できるCO₂とほぼ同じです。

全社

エコ活動を推進

コーセーでは社員の環境保全に対する関心を高め、環境活動への啓発を図る活動の一環として、1999年から毎年12月をエコ推進月間と位置づけて活動しています。全社員、全事業所を対象として社内キャンペーンを展開するほか、全社員、全部門を対象として活動事例や標語・川柳の募集を行っています。

2010年度は、資材削減による資材費低減とリサイクル性のあるパッケージデザインや、輸出入荷における配送業者の統合によるCO₂の排出量削減およびコスト削減、過剰製造の低減などの活動事例が報告されました。